

ようじえんだより 2017年度11月号

十日町幼稚園 〒948-0083 十日町市本町西1丁目253番地
Tel:025-752-2068 Fax:025-752-2189

11月主題『いっしょに』

主題聖句：「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、

わたしもその中にいる」 マタイによる福音書 18章20節

☆ 0～2歳児：野菜や果物が神様からの恵みと知る。思いや主張、甘えを受け止めてもらいながら、安心して生活する。木の実や落ち葉などの自然にふれて遊ぶ。

☆ 3～5歳児：豊かな秋の実りを喜び、神様に感謝する。アイディアを出し合ったり、相談し合い、イメージを共有しながら遊ぶ。いろいろな人の働きに心を向ける。

一人遊びから二人遊び、三人遊びに

前任地の幼稚園で、保護者の方から深刻な表情で声をかけられたことがありました。「先生、うちの子、友だちいないんじゃないでしょうか」。聞くと、園への送迎時も友だちと遊んでいることをほとんど見たことがなく、園庭で一人でぼつんとしている様子を見たこともショックだった、というお話でした。子どもがひとりぼっちでいると思うと、親としては切ない思いになることは当然です。ただ…この方のおおさんは、2歳児だったのです。

2歳児は周囲の友だちのことが気になり始める時期ですが、基本的にはまだ一人遊びを十分に楽しむ時期です。特定の友だちといつも一緒に遊びたがるようになるのは、3歳を過ぎてからでしょう。しかしそれも一緒にいたただけで、意思疎通が十分になされた遊びでないことも多い時期です。4歳児になると3人以上で遊べるが増えます。しかし行き違いの中でケンカが起こって、すぐに遊びが壊れていくこともしばしばある年齢です。

遊びが壊れそうになっても、「こうしようよ！」という声をかけて、何とかみんなをまとめよう

とする存在が現れてくるのは、5歳児(年長さん)くらいになってからです。

一緒にいること、遊ぶことの喜びを感じるようになることが、幼児期の最終目標の一つです。「協同的な学び」という言い方もしますが、みんなで力を合わせて何かを成し遂げるためには、五感をフルに使い、相手を思いやる気持ちや人の話を聞く姿勢も必要になります。そのような力を遊びの中で見出して、小学校へと進学していくのです。

だから十分に一人遊びを！

そのように友だちと十分に、深くかかわりをもつようになるためには、しっかりと一人遊びをする時間を確保することが大切です。子どもはよく一人で空想遊びをしたりするものです。一人でブツブツ言っている我が子を見て不安になることがあるかもしれませんが、それは極めて正常なことです。むしろテレビやスマホを長時間みたりするほうが、脳への刺激が強すぎて、良くないこともあるようです。友だちと十分に遊び込んで大きくなるためにも、一人遊びや絵本の読み聞かせは、大切な時間です。
園長：久保田愛策

年間主題『愛されて育つ』

主題聖句：あなたがたは神に愛されている子どもです

新約聖書 エフェソの信徒への手紙 5章1節